

令和6年度 特色ある道德教育推進校
大網白里市立増穂中学校

研究主題

「考え、議論する道德」の実現に向けた授業改善
～生徒の議論を促す指導法の探究～

取組1 生徒の考えを深めるための工夫

1 発問の工夫

発問は、「道德授業の質的改善への最大のカギ、それは、発問である。」「発問は教員による最大の「仕掛け」であり、豊かな学びの推進力にもなる。」と言われている。

（参考：道德教育編集部「考え、議論する道德をつくる新発問パターン大全集」明治図書、2021）本校では、各学年に道德科担当教員を1～2名配置し、学期に3回程度研究推進委員会を実施した。ここでは主に中心発問を検討し、生徒の実態に応じた授業づくり、授業改善に努めた。

（1）発問に関する全体研修の実施 令和6年5月23日 参考：道德教育編集部（2021）

- ・発問の大きさを意識して、小さな発問から大きな発問まで生かす
価値を問う：主題となる価値や内容について直接問う
教材を問う：教材のもつ意味を問い、教材についての意見をもたせる
人物を問う：教材中の人物の生き方や行為の在り方などを問う
場面を問う：教材中の人物の気持ちや行為の理由などを問う
- ・多面的な思考を促す発問
→理由や原因などを「分析的」に見ることができる発問
例：主人公の気持ちや行為の意味を明らかにしようとする発問
- ・多角的な思考を促す発問
→自身の意見に基づき「選択的」にアプローチできる発問
例：自分だったらどうするか、どのように考えるかを大事にした発問
- ・考えの深まりを促す「補助的」な発問（揺さぶり・問い返し・切り返し）
→効果的に使えば思考が活性化し、深い学びにつながるきっかけになる。
例：「本当にそれでよいのか。」「もし～だったらどうするか。」

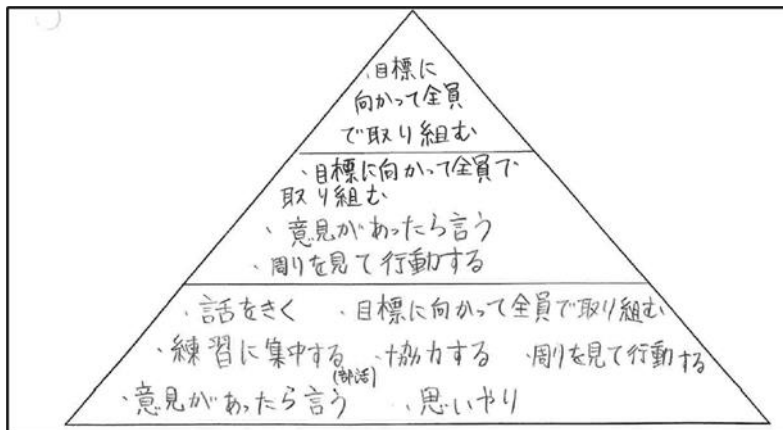
（2）授業実践例 教材：学習机

教科書通りの発問	生徒の実態に合わせて考えた発問
①「私」のどんな思いがお客様（父親）を怒らせてしまったのだろう。	①お客さんが怒っているときの「私」の気持ちはどんな気持ちだろう。
②もう一度親子に頭を下げていたとき、「私」はどんなことを思っていただろう。	②親子に頭を下げていたとき、「私」は何を思っていただろう。
	③礼儀を尽くすにはどのような心が必要だろう。

2 思考ツールの活用

思考ツールとは、分類する、比較する、関係づける、順序立てる、構造化するなど、物事を批判的、複合的に考える際に、その考えを整理して見えやすい形で表現するための道具（ツール）である。（参考：諸富祥彦・土田雄一「考えるツール&議論するツールでつくる小学校道徳の新授業プラン」明治図書, 2020）思考ツールを活用することによって、生徒はおのずと様々な視点で考えることができるようになると同時に、その過程で考えが深まっていくと考える。

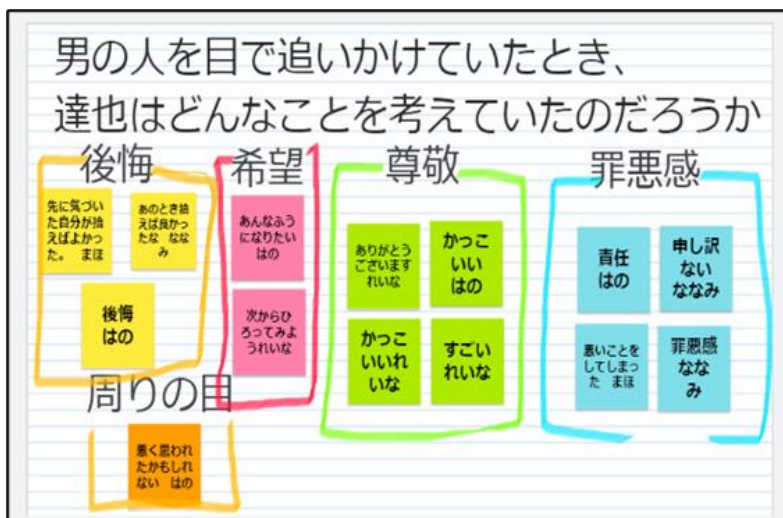
【ピラミッドチャートの例】



発問のみが書かれたワークシートよりも、チャートに従って考えた場合の方が、思考が深まっていく様子を見ることができる。

取組2 議論を促すためのICT活用

【ICTを用いたKJ法による議論の例】



様々な視点で考えることができている様子がわかる。

グループ内で相互に意見を出し合う（議論する）ことができ、それが思考の深まりにもつながっている。

主な成果と課題

- 生徒の実態に応じて主発問を工夫することで、ねらいとする価値を考える上でより深く考えていくことにつながる。
- 教材のテーマに合わせて思考ツールを活用していくことで、多面的・多角的に考えを深めたり、考えの根拠を明確にできたりすることができる。
- Padlet や Canva などを使用し、意見の共有がスムーズに行えた。
- 発問の工夫は、成果でありながらも、もっと研鑽を積むとよりよい考え・議論が深まるものである。よって、課題ともいえるもので、シンプルであるが難しいものである。

授業実践事例

大網白里市立増穂中学校 1 年 B 組 道徳科学習指導案

令和 6 年 1 1 月 1 日

- 1 単元名 失われなくてよかった命
 内容項目 D (2 0) 自然愛護
 教材名 「『ソーセージ』の悲しい最後」
 (出典 中学道徳 I きみがいちばんひかるとき 光村図書)

2 展開

過程 時配	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○発問 ・予想される生徒の反応	指導上の留意点 ・指導と支援 ★評価 (方法)	資料 教具
導入 10 分 一斉	1 事前のアンケート結果から、人と自然との関わりについて、知っていることを確認・共有する。 ①アンケートを確認する。 ②知床の自然について理解する。 ③ヒグマが倒れている理由を考える。	・アンケート結果を提示し、人間と自然との関係性についての考えを振り返らせる。 ・知床についての動画から、自然のすばらしさや生態系の豊かさについて考えさせる。	TV モニター ICT 機器 (教員用) 動画 写真
	人と自然がよりよい関係を築くためには、どんな考えが必要だろうか。		
展開 前段 5 分 一斉	2 教材を読み、「ソーセージ」の置かれた状況を考える。	・教師が範読し、解説はあえて行わない。	教科書
展開 後段 25 分 個別 グル ープ	3 登場人物の気持ちや状況について考える。 ○観光客はなぜソーセージを与えてしまったのだろう。 ・かわいいから。 ・反応を見たいから。 【補助発問】 ○自分だったら餌を与えてしまうか。 ◎「ソーセージ」に対する対応は正しかったのか。 【補助発問】 ○殺処分しか方法がなかったのか。 ○どんな方法があっただろう。 ・殺処分しかなかった。 ・他の方法もあった。	・悪意はないものの、観光客の自分本位な考えからの餌やりであることを意識させる。 ・補助発問により、考えを広めさせるが、発言は求めない。 ・人が自然を支配したり、つくり変えたりするという考えではなく、共存していくことが大切であることに気付かせる。 ・Padlet と Canva の付箋機能を活用し、自分の考えを整理させる。 ・付箋に整理する際は、1 つの考えだけでなく、思い付くだけ記入するよう伝える。 ・グループで共有し、類似点や新たな考えについて話し合わせる。	教科書 TV モニター ICT 機器 (教員用) 写真 タブレット 端末 Padlet Canva

		・議論の手立てとして、議論を活性化させるための具体的な言葉を提示する。 ・議論を深めることが難しいグループには、提示した言葉を使用した声かけを行い、議論を促す。 ・議論後、各グループの付箋を TV モニターで共有する。 ★人と動物との関係について考え、共存していくことの大切さについて気付くことができたか。 (発言・Padlet と Canva)	
終末 10 分 個人	4 振り返りをする。 ○今日の学習で思ったことや考えたことを書きましょう。 ・人間の立場から考えるだけでなく、自然や動物の立場で考えなければいけない。	・「感想」とだけ提示することで、考えを広げさせる。	タブレット 端末 Googleform

3 授業の様子

(1) 板書 ※モニターに提示



(2) 児童生徒の様子（参観者の感想）

- ・ I C T を効果的に使い、生徒の議論を促していた。
- ・ 教師の発問が生徒の思考や議論を促していた。